

# 教室から世界へ！かごしまグローバルクラスルーム事業 海外派遣 報告書 — 台湾編

○ 日程：令和5年9月25日（月）～9月30日（土）（5泊6日）

○ 行程表：

日付	内容
9月25日（月）	出発
9月26日（火）	■企業研修等 TSMC 台積創新館 新竹サイエンスパーク 科学園区探索館 高鐵新竹駅（台湾新幹線）
9月27日（水）	■学校訪問 苗栗県私立君毅高校 1日目（授業／部活体験等）
9月28日（木）	■学校訪問 苗栗県私立君毅高校 2日目 ・中港慈裕宮等（竹南の歴史魅力の紹介） ・台湾のお菓子作り体験（調理科）
9月29日（金）	■実地研修 忠烈祠・故宮博物院 十分（天燈上げ）・九份散策
9月30日（土）	帰国

○ 生徒の報告

## 「TSMCを訪ねて」

台湾初日に、台湾の「化け物」としても有名なTSMC本社に向かった。私たちは付設されているTSMC台積創新館で研修を行った。そこは近未来型の博物館で世界最大級の半導体TSMCの歴史と技術を実際に肌で感じる事ができる施設だった。大規模なタッチパネルでの説明や半導体の製造技術の紹介に、私は圧倒された。

中でも印象的だったのがVR体験だ。私はTSMCの創業者であるモリス・チャンの仕事の一日を仮想現実で体験し、私は衝撃を受けた。実際に車に乗っているかのような感覚や宙に浮いた感覚になった。その体験後も酔いを感じているほどだった。今回の企業訪問で私達は台湾が世界に誇る技術を知ることができた。加えて、最新技術を学ぶ過程で参加者7人の心を解きほぐすことができた。



この体験は、将来、自分の将来に生かされると思う。普通の中学生ではできないような体験を台湾派遣で経験できたことをとても嬉しく思った。同時に異国の地で外国人として過ごした今回の研修を必ず将来の糧にし、残り少ない中学校生活を充実させたいと改めて感じる事ができた。

（金峰学園 川田）

## 「台湾の生徒と対面」



の授業を受け、一緒に日本の歌を歌った。

翌日の学校交流は、台湾の生徒と竹南の歴史魅力の紹介(見学)と台湾のお菓子作り体験をした。校外へバスで出かけ、竹南の名所を回った。台湾の先生と生徒さんが、歴史のことについてわかりやすく教えてくれた。午後からは、学校へ戻り、調理科の高校生と台湾のお菓子を一緒に作った。形を整えるなど難しかったが、台湾の生徒が分かりやすく教えてくれた。お菓子作りを通して、台湾の生徒と交流ができたことがとても楽しかった。

(川薩清修館高校 枕辺)

研修3日目、私たちは苗栗県にある私立君毅高校へ向かった。台湾の生徒との交流一初日である。最初は、台湾の生徒と仲良くなれるか心配だった。最初はあまり馴染めなかったが、次第に台湾の生徒が笑顔で話しかけてくれたことがとても嬉しく、多くの生徒と仲良くなることができた。私たちが鹿児島県の紹介をする時は、台湾の生徒が皆、真剣に聞いてくれた。午後は、同じ学校の中学生と、音楽



## 「君毅高校での交流会・授業体験」

現地の学校での授業体験が私の中の一番の思い出。社会と音楽の授業を実際に受けることができ、多くのことを学ぶことができた。

社会の授業は、日本の地形に関する内容だった。自分の国について説明されているのに、私の知らないことが多く、自国についての知識が足りないことに焦りと恥じらいを感じた。音楽の授業では「涙そうそう」を中国語と日本語のそれぞれで歌った。同じ曲が親しまれていることに驚き、同時に、音楽で他国の人と通じ合えることが嬉しかった。何よりも印象に残っているのは、台湾の生徒が皆フレンドリーでとても優しい人ばかりだったことだ。上手く会話ができない時も、私のことを理解しようと一生懸命話を聞いてくれたり、気さくに声をかけてくれたりと、初めて会う私たちを受け入れてくれる姿勢に感激した。

また、交流会の時はお互いの国についてのプレゼンを行い、より理解を深めることができた。私たちの住む鹿児島や私の地元である奄美についても紹介することができ、鹿児島・奄美について興味を持ってもらえたと思う。



授業体験と交流会を通して、母国語がお互い違っても「英語」という共通言語を使うことで、お互いを知り、通じ合えることに大きな喜びを感じた。これから先、英語を使うことで台湾だけでなく世界中の人々となつなげることができると確信した。今後も英語を学び続けたいと思った。

(金久中学校 新納)



## 「鹿児島県人会の方々との交流」

私たちは台湾にいる鹿児島県出身の方々や台湾在住の日本人の方々との交流会に参加することができた。高級レストランで円卓を囲み、私たち中学生・高校生の間に県人会の方々께서座ってくださり、話を伺うことができた。

参加してくださった方々は、仕事や語学留学で台湾に来ていた。私が話を伺うことができた方は、語学留学で台湾に来ていた。私は語学留学に元々興味があったので、とても勉強になった。別の方も語学留学で台湾に来ており、年齢が違っても、二人ともそれぞれ自分の目標をもち、有言実行している姿がとても格好良かった。一人の方が、「留学をするのに年齢は関係ないと思うし、自分の目標を達成するためにここにいる」という言葉を聞いて、自分から行動することで目標に一步步近づいていくことができるのだと感じた。

私は、将来の夢で少し悩んでいたけれど、二人の話を聞いて、自分の中での考えが広がり、自分が思い描いている将来の自分に近づいていくことができるよう、今、何をすべきなのかを考えることが大切だと思った。そして、将来、もし、今思い描いている道と自分が違う道に進んだとしても、自分がしてきた努力は無駄にならず、自分の強みになるということも知ることができた。短い時間だったが、とても貴重な時間になった。



(沖永良部高校 高瀬)

## 「台湾文化に触れて」

台湾派遣 5 日目の午前中、私たちは忠烈祠と故宮博物院を訪れた。

忠烈祠では衛兵交代式を見た。まず入り口には大きな門があり、その奥には大殿があった。入り口の門では猛暑の中、制服を着た二人の衛兵が瞬きもせずじっと立って見守っていた。人形のようなだった。忠烈祠の中はとても広く、整然とした雰囲気、鳥肌がたった。衛兵の銃を高く投げ上げて回したり、足音を立てて行進したりする姿はとても迫力があつた。衛兵が毎回の訓練で、彼らの足下にはオレンジの線ができていた。衛兵のシンクロした動きとその機敏さに衝撃を受け、日本にはない徴兵制の日々における過酷な訓練で鍛え上げられたのだろうと思った。

世界四大博物館とされる故宮博物院にも行くことができた。そこでは、歴史的な焼き物を見ることができ、手作業で製作された物とは思えないほど精巧な技術で作られた数々の作品にとても驚かされた。また、時代を重ねるにつれ、焼き物の色も鮮やかになっていくことが興味深く感じるとともに、技術の進化も感じた。特に印象に残っているのは白菜のオブジェである。それは実際の白菜よりは小さく、葉の部分にはバッタとキリギリスが彫られていた。それらが子孫の繁栄を意味していると聞き、他の作品にもこめられた様々な意味をさらに知りたいと感じた。また、石で作られた有名な豚の角煮に見立てた作品は、色や大きさ、匂いがしそうなほど本物そっくりだった。

台湾の制度と歴史について学ぶことができた。日本との違いに気づき、多方向から考えることができた。

(加世田高校 鶴田)



## 「十分と九份を訪ねて」

海外派遣 5 日目の午後、私達は台湾の観光名所で新竹に位置する十分(シーフェン)と九份(キウフン)を訪れた。

十分では、「天燈」と呼ばれるランタンを空へ飛ばすことができることで有名で、私達も天燈を空へ放つことができた。天燈は高さ 1 メートルほどで、その 1 面にそれぞれ自分の願いを書き 3 ~ 4 人で飛ばした。一番驚いたのは、実際にまだ使われている線路の上でランタンを飛ばすことだ。さらに、線路ギリギリまでお店が並んでいて、電車が通るときには店先との距離が 1 メートルにも満たない。電車の本数が 1 時間に 1 本という少なさだが、日本ではなかなか見ない光景だった。

九份は、人気のジブリ作品の 1 つである「千と千尋の神隠し」のモデルになったことで有名な観光地だ。実際に足を運んでみると、本当に映画の名シーンを彷彿とさせる独特な町並みであり、まるで映画の中に入ったかのような気分になった。赤い提灯が多く吊るされていて、空が暗くなると、その提灯に灯りがともっていった。すると、昼間とはまた違うとても幻想的で華やかな街に変わり、とてもきれいだった。日本では体験できない雰囲気興奮したのを覚えている。また、九份には飲食店やお土産屋も多く立ち並んでいた。特に、飲食店では、台湾ならではのものが売られていたためその香りからも台湾を感じることができた。

今回の現地視察では、他の日と比べ、一層台湾を全身で感じたり、日本との違いに驚かされたりと、とても充実した研修だった。(伊敷中学校 山口)



## 「台湾派遣をとおして」

私達は今回、鹿児島県代表として台湾に研修という形で行くことができた。

研修中、参加者皆で一致団結し、困った時は全員で解決することが大事だった。この研修を通して、言葉の壁に囚われず積極的に話しかければ、必ず良い「問い」につながるということを学んだ。

最初は、なかなか地元の人と話すのを躊躇することもあったが、日が経つにつれ、積極的に話しかけるようになった。英語だけでなく、ガイドさんから中国語を教わることもでき、夕食の際にレストランの店員に中国語で話しかけ、店員さんと楽しく会話することもあった。英語が苦手でも、自分なりに気持ちや考えを伝えれば、相手に伝わり、意味を伝えることができると感じた。「どうやって伝えたら、もっと伝えることができるだろうか」。これこそ、今回の研修で培った力だと思う。台湾の高校生と中学生との交流の際は、台湾の生徒と楽しく交流することができた。様々な人と交流することができ、多くの台湾の生徒と強い絆を結ぶことができたことがとても嬉しかった。

今回の研修は、多くのことを学ぶ良い機会になった。この研修をどのように生かすことが鍵になる。将来、様々な国や地域に飛び出すなど、積極的に活動の場を広げたい。また、研修で学んだことを帰国してからどのように伝えるのかも重要だと思う。学校の先生や友人、家族に研修で学んだことを自分の言葉で伝えたい。将来、また海外に行く機会があれば、今度はもっと鹿児島の魅力を伝えられるようになっていきたい。

今回、私達 7 人にこのような研修を用意してくださった方々に本当に感謝したい。本当にありがとうございました。

(曾於高校 寺山)

